

スマートビルディングの実証実験を開始

～IoT技術の活用による、ワーカーの利便性向上とビル運営管理の効率化をめざす～

NTT都市開発株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:中川裕、以下NTT都市開発)は、NTTグループである株式会社ディメンションデータジャパン(本社:東京都港区芝浦、代表取締役社長:能島純一)と共同し、このたび、NTT都市開発が保有するビルにおいて、「IoT/M2Mプラットフォームを活用したスマートビルディングの実現に向けた実証実験」を開始することをお知らせいたします。

近年、ビル運営・管理におけるテナントニーズの多様化や、メンテナンスコストの削減等様々な課題に対し、IoT技術等の活用による解決が期待されています。

これまでビルで計測されたデータは、機器の制御やエネルギー管理等の利用に留まっていたが、低消費電力・長距離通信に対応した新しいセンサーによる計測データ(人の動きや位置、速度、音、振動等)を加えることにより、新たなサービスの提供(利用状況の見える化、混雑緩和等)や、ビル運営管理の効率化(清掃の頻度、警備の配置計画等)をめざします。

※M2M(Machine to Machine):機器同士が、人の介入なしに直接通信を行って動作すること

【 実証実験の概要 】

本実証実験ではスマートビルディングの一例として、混雑しがちなオフィスビルの喫煙室を対象に、ユーザの人数および位置データを人感センサーで測定します。さらに、設置が容易な環境センサーで温度・湿度・CO₂等の様々なデータを取得し、データの相関関係を分析します。その分析結果から、喫煙室の混雑情報の提供や、利用状況に応じた清掃頻度の見直し、リアルタイム空調制御への活用も模索し、ビルの快適さと環境負荷軽減の両立をめざします。

